

開催日時：2002年10月17日(木) 10:00～13:15

場 所：新大阪ワシントンホテルプラザ 2階 レルミエール

参加者数：委員11名(うち1名は部会長の要請により参加)、河川管理者11名、
一般傍聴者71名

1 決定事項

第16回猪名川部会は11月8日(金)16:00～19:00に開催する。10月24日(木)の最終提言作業部会から出される提言(案)について、議論を行う。

2 審議の概要

委員会、部会および委員会WGの状況報告および情報共有

資料1-1「委員会および各部会、WGの状況(中間とりまとめ以降)」、資料1-2「委員会WG結果概要」、資料1-3「委員会WG関連資料」をもとに、委員会および他部会、各WGの活動状況について報告が行われた。

最終提言に関する意見交換

資料2-1「最終とりまとめに対する猪名川部会として記載を要望する意見等の確認」を用いて、利水と利用を中心に情報共有および最終提言記述内容についての議論がなされた。

利水について

まず、河川管理者より資料2-2-3「猪名川流域及び阪神水道給水区域の水源」を用いて地域特性、取水量等の説明が行われ、次に阪神水道企業団より資料2-2-1「阪神水道企業団の水需要について」を用いて事業内容や給水量等の説明が行われた後に意見交換が行われた。

主な意見

- ・20歳までに3度くらい渴水を経験しないと、水に対して危機感を感じないだろう。利水安全度のレベルが下がったとしても、渴水を経験してもよいのではないか。
- ・渴水が起こった場合、水道の全てを供給するのは難しく、何%かは使用できない。節水も大事だが、ある程度の水の蓄えも必要だ。
- ・水需要予測を再評価する場合は、主婦など住民の意見を取り入れるべき。

利用等について

主な意見

- ・高水敷利用のところでは、猪名川を「里川」ではなく「都市河川」と強調したい。
- ・猪名川は自然と人間がうまく共存している河川だと思うので、「里川」という言葉はぜひ使うべきだ。
- ・ハザードマップについては、内容のレベルアップと作成の迅速化を強調してほしい。
- ・破堤による壊滅的被害の回避については、意図することがわかるように丁寧に書くべきだ。

一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者3名から「阪神水道企業団の管轄下の4市では将来的にダムを作らなくても、兵庫県営水道と工業用水を使えば生活水の確保が可能だ」「第4回水需要WGの結果概要に誤りがある。修正すべき」などの発言があった。

このお知らせは委員の皆様にご会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」、詳細については「議事録」を参照下さい。